様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　４ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ０１８６０

研究課題名（和文）女性医師支援が職場の意識と働き方、地域医療に及ぼす影響についての解析

研究課題名（英文）Analysis of the effects of career supporting program and for female physicians on workplace attitudes and work styles and community health care

研究代表者
片岡　仁美（Kataoka, Hitomi）

京都大学・医学研究科・教授

研究者番号：２０４２０４９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、女性医師支援が医療現場に及ぼす影響について、働き方改革の視点、構成員の意識変容、地域医療と住民への影響の観点から分析するためにアンケート調査を行った。
解析の結果、女性医師支援は職場構成員のワークライフバランスおよび性別役割分業意識の改善による働き方改革の推進、女性医師支援制度に対する支援枠利用者および上司・同僚のポジティブな認識、支援枠利用医師の共感性（empathy）の向上、住民視点での地域医療の充実に寄与することが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
働き方改革が進められる中、医療提供体制の維持と医師の健康との両立は喫緊の課題であり、医師の労働時間短縮に向けて提示された緊急的な取組の一つとして女性医師等に対する支援が挙げられたが、医療現場に及ぼす影響について具体的な検証はされていなかった。
岡山大学病院では2007年から女性医師支援を行ってきたが、本研究課題では女性医師支援が医療現場に及ぼす影響についてアンケート調査とその解析を行った。出産や育児というライフイベントを経験しながらも女性医師が活躍できる支援を行うことは、医師の働き方改革の推進、医療現場構成員のポジティブな意識変容、地域医療の充実において有効であることを示唆する結果を得た。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we conducted surveys to analyze the impact of women doctor support on medical workplaces from the perspectives of work style reform, changes in constituent members’ awareness, and community healthcare and its people.
The results suggest that support for women doctors contributes to the promotion of work style reform by improving work-life balance and awareness of gender division of labor among the workplace members; positive recognition of the support system by users and their supervisors and colleagues; improvement of empathy of supported doctors; and enhancement of community healthcare from the residents’ viewpoints.

研究分野：医学教育

キーワード：女性医師　キャリア支援　働き方改革　ワークエンゲージメント　ダイバーシティ&インクルージョン　地域医療　男女共同参画　共感性

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

わが国の女性医師は近年急速に増加し、現在女性医師は全医師の 21.1%、29 歳以下の年齢層では 34.6％を占める。2000 年頃から医師不足と地域・診療科による医師の偏在が社会的にも大きな問題となり、医師不足によってますます過酷になる労働条件の中、急速に増加している女性医師の就労状況が注目されてきた。一般人口において女性の就労率が育児期に一旦低下する M 字カーブの存在が指摘されているが、女性医師でも卒後 5-15 年の 10 年間に就業率が 73.4%にまで減少することが報告された。

一方、医師の長時間労働は従来問題視されてきたが、応召義務などの特殊性もありこれまで大きな変革がなされなかった。1 週間の労働時間が 60 時間を超える労働者は全職種では 14%であるが、医師については 41%であり、全職種の中で最大の割合である。医師の働き方改革を推進するにあたり、緊急的な取り組みとして提示された項目の一つが女性医師等に対する支援である。しかし、具体的にどのような支援が働き方改革に寄与するのか、というエビデンスは示されていない。

岡山大学病院では 2007 年文部科学省の「社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」に採択されたことを契機に柔軟な勤務態様を可能とするキャリア支援制度導入などの積極的な方策を実施し、現在までに 150 名以上の女性医師が支援を受けてキャリア継続を果たしている(片岡仁美. 医学教育 45(5), 2014)。また、我々は 2010-2011 年度の科学研究費によって女性医師支援の多面的効果の評価を行った。その結果、柔軟な勤務体制は女性医師のみならず、職場からも必要とされる方策であることが示された（片岡仁美. 2011 年度科学研究費研究成果報告書)。しかし、長期間にわたる女性医師支援の取り組みや、そのアウトカムの分析は先行事例がなく、我々も女性医師支援が職場全体の働き方改革に寄与するか、という観点では分析を行っていない。また、キャリア支援制度により、職場の多様性が格段に増すこととなったが、女性医師の増加という表層のダイバーシティの推進が構成員の考え方や共感性といった深層ダイバーシティにどのような影響を及ぼすかもこれまでに評価がなされていない部分である。

また、岡山大学病院では大学病院内の女性医師支援プロジェクトのみならず、県内の医師不足地域をモデル地区（新見地区）として事業展開を行っている。多職種を対象とした医療技術向上、産休・育休時の代替医師派遣などである。このような介入の前後で地域医療の現場における変化についての具体的な検証はなされていないため、本研究で医師不足地域における女性医師支援の地域医療に果たす役割を検証する。

２．研究の目的

本研究では、1. 女性医師支援は「働き方改革の推進」に寄与しうるか、2. 女性医師支援によるダイバーシティの推進は構成員の意識や共感性の変化に寄与しうるか、3. 女性医師支援は地域医療の充実に寄与するか、という 3 点を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

(1)　「女性医師支援は「働き方改革の推進」に寄与しうるか」についての分析

予備調査として、2021 年 2 月に岡山大学に在職する全教職員に対して行ったアンケート調査データから岡山大学医療系キャンパス教員データを抽出し、勤務時間や性別役割分業意識、ワークエンゲージメントについて解析した。ワークエンゲージメントはユトレヒト・ワークエンゲイジメント尺度を用いた。

(2)　「女性医師支援によるダイバーシティの推進は構成員の意識や共感性の変化に寄与しうるか」についての分析

① 岡山大学病院で 2008 年に導入したキャリア支援制度について、導入後の 2011 年度と 2018 年度に制度利用者の上司と同僚を対象に実施したアンケート調査のデータを用い比較検討した。

② 岡山大学病院のキャリア支援制度利用女性医師を対象に 2015～2017 年度に実施したアンケート調査のデータを用い、医師の共感性（empathy）に関する解析を行った。Empathy の評価には Jefferson Scale of Empathy（JSE）日本語版（Kataoka et al. Academic Medicine, 2009）を用い、支援枠利用中医師と同利用終了後医師との比較、所属診療科別の比較を行った。

(3)　「女性医師支援は地域医療の充実に寄与するか」についての分析

医師不足地域における女性医師支援モデル地区（岡山県新見地区）の住民を対象に地域医療に関する意識調査を質問票により行い解析した。

４．研究成果

(1)　「女性医師支援は「働き方改革の推進」に寄与しうるか」についての分析

回答者の属性は以下のとおりであった。男性 91 名、女性 49 名、その他 2 名の計 142 名であった。年齢分布は 40-50 代が 85%であった。職位は助教が 36.8%でその他の職位は 10%台であった。週あたりの勤務時間は 50-60 時間が 26.6%、60-70 時間が 23.0%、70-80 時間が 14.4%、80 時間以上が 7.2%であり、週 60 時間以上が 44.6%に上った。

性別役割分業意識（表 1）については、「家族を経済的に養うのは男性の役割である」とする意見が 53.6%と過半数を超え、「子どもが 3 歳くらいまで母親は育児に専念すべきである」とする意見は 25.7%であったが、いずれもそう回答した割合は男性教員で有意に高かった。「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」とする回答割合は、有意でなかったものの男性教員の方が高かった。これらの結果は、性別役割分業意識は男性教員でより高いことを示唆している。なお、「男女ともに仕事・家事育児介護の両立ができた方がよい」とする回答割合は男性教員で有意に高かった。

表 1：岡山大学医療系キャンパス教員における性別役割分業意識の男女比較（2021 年調査）

	男性(n, %)	女性(n, %)	p-value
(1) 家族を（経済的に）養うのは男性の役割だ	61/91 (67.0)	14/49 (28.6)	<0.001
(2) 子どもが 3 歳くらいまでは、母親は仕事を持たず、育児に専念すべきだ	29/91 (31.9)	7/49 (14.3)	0.023
(3) 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである	13/91 (14.3)	3/49 (6.1)	0.148
(4) 男性と女性は、どちらも仕事と家事・育児・介護の両立ができたほうがよい	86/91 (94.5)	40/49 (81.6)	0.015

参考解析として、全学教員の性別役割分業意識の変化について 2009 年調査と 2021 年調査を比べると、2021 年調査では性別役割分業意識が改善されていた。

ワークエンゲージメントについては、「活力」の設問に平均 79.2%、「熱意」の設問に平均 93.4%、「没頭」の項目に平均 85.4%が肯定的回答（いつも、とても、よく、時々感じる）をしていた。ワークエンゲージメントを男女別にクロス集計した結果では、明らかな男女差はみられなかったが、女性教員において「いつも感じる」とする意見の割合が男性教員より高い傾向がある一方否定的回答も男性教員より高く、二峰性となる傾向が見られた。

(2)　「女性医師支援によるダイバーシティの推進は構成員の意識や共感性の変化に寄与しうるか」についての分析

①　キャリア支援制度について制度利用者の上司と同僚の意識：2011 年度と 2018 年度の比較

2011 年度と比較して 2018 年度では、「支援制度利用者と仕事をした経験がある」、「この制度は医局にとって有用であると思う」、「この制度があると医局勧誘のアピールポイントになる」の項目が有意に高かった。また同僚のみの解析では、前述の 3 項目に加え「制度利用者は期待される程度の仕事ができている」の項目で 2018 年度が有意に高かった。これらの結果から、支援制度の有効性は導入後年数を経るにつれ、より認知され、制度利用者の勤務内容に対する評価が高まっていることが示唆された。

②　岡山大学病院キャリア支援制度利用女性医師の共感性（empathy）

支援枠利用中医師と同利用終了後医師との比較では、支援枠利用中医師に比べて同利用終了後医師はより empathy が高い傾向がみられた。支援枠終了後医師では、子どもがある程度成長し手がかからなくなったことによる身体的・精神的余裕、医師としての経験年数をより積んでいることが影響している可能性があると考察した。

所属診療科別の比較では、people-oriented の診療科所属医師は、technology-oriented の診療科所属医師よりも empathy が高い傾向がみられた。これは米国における先行研究の結果と一致している。

(3)　「女性医師支援は地域医療の充実に寄与するか」についての分析
新見地区にある 1 病院の外来を受診した成人患者 100 人を対象に無記名アンケート調査を行った。主な結果を示す。新見地区プロジェクトがこれまで行ってきた医療従事者への研修や地域住民と医療従事者の交流については、必要性や信頼性、安心感を評価する回答がほとんどであった（図 1)。一方、医療従事者との交流にハードルを感じたり時間の確保が難しいと考える回答もみられた（図 2)。

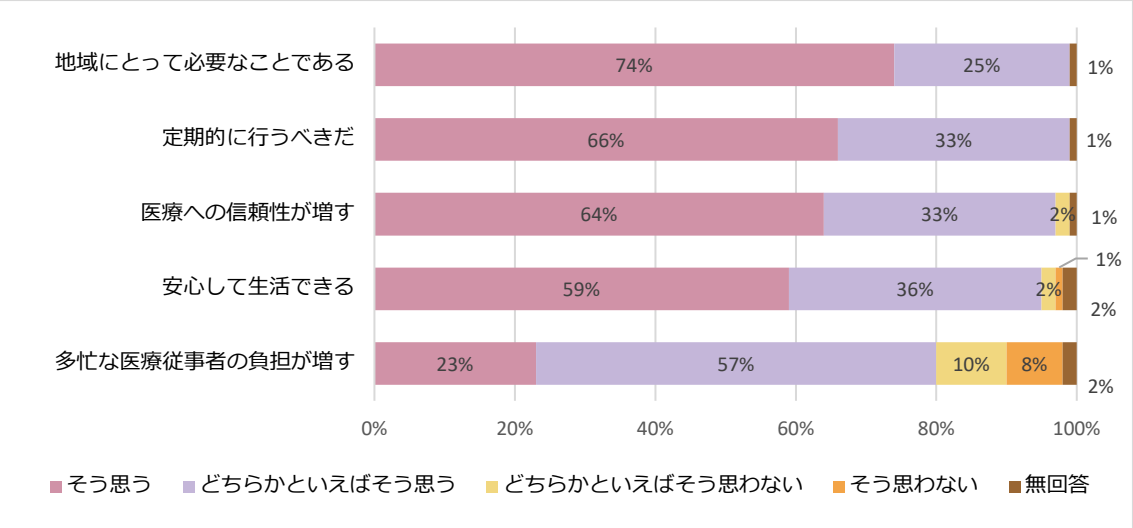

図 1：医療従事者への研修を行うことについて

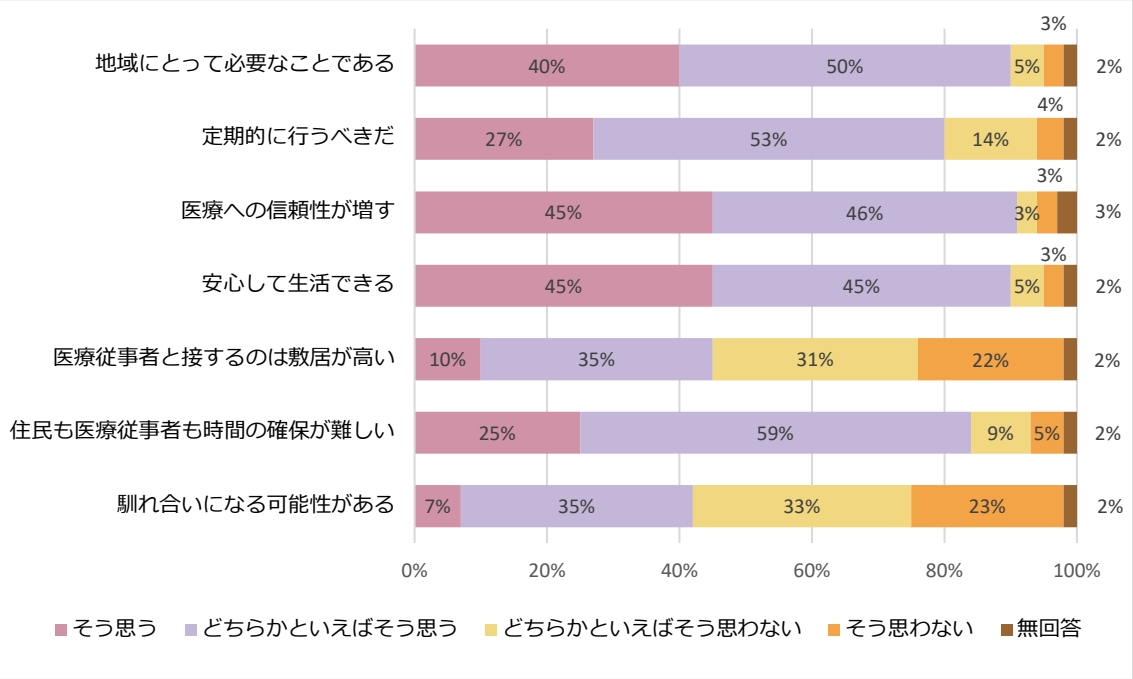

図 2：地域住民と医療従事者の交流について

女性医師が地域で働くことについて、医療者をより身近に感じるようになる、医療に対する信頼性が増す、との回答はそれぞれ 8 割以上に達した（図 3)。

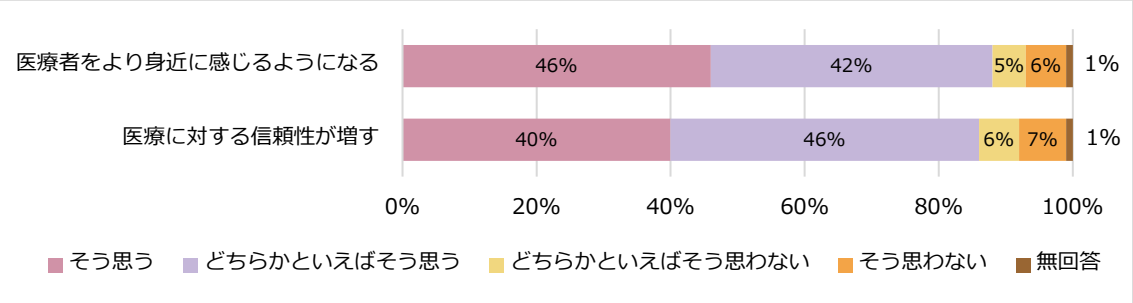

図 3：女性医師が地域で働くことによる意識変化

住んでいる地域の医師の過重労働について、約 3 割の回答者で過重労働の認識があった。医師のワークライフバランスについてはほぼ全員が必要であると回答した。医師の負担軽減のために心がけていることとして「時間外受診をしない・減らす努力」「かかりつけ医を決める」など何かしら心がけている人は約 9 割に達した。

10 年前と比較して改善した点として、受診やアクセス面での改善点のほか、希望する診療科、専門医、女性医師に診てもらえるようになった点が挙げられた（図 4）。一方、緊急時や困ったときにいつでも診てもらいたいという改善点を希望する回答が多かった（図 5）。

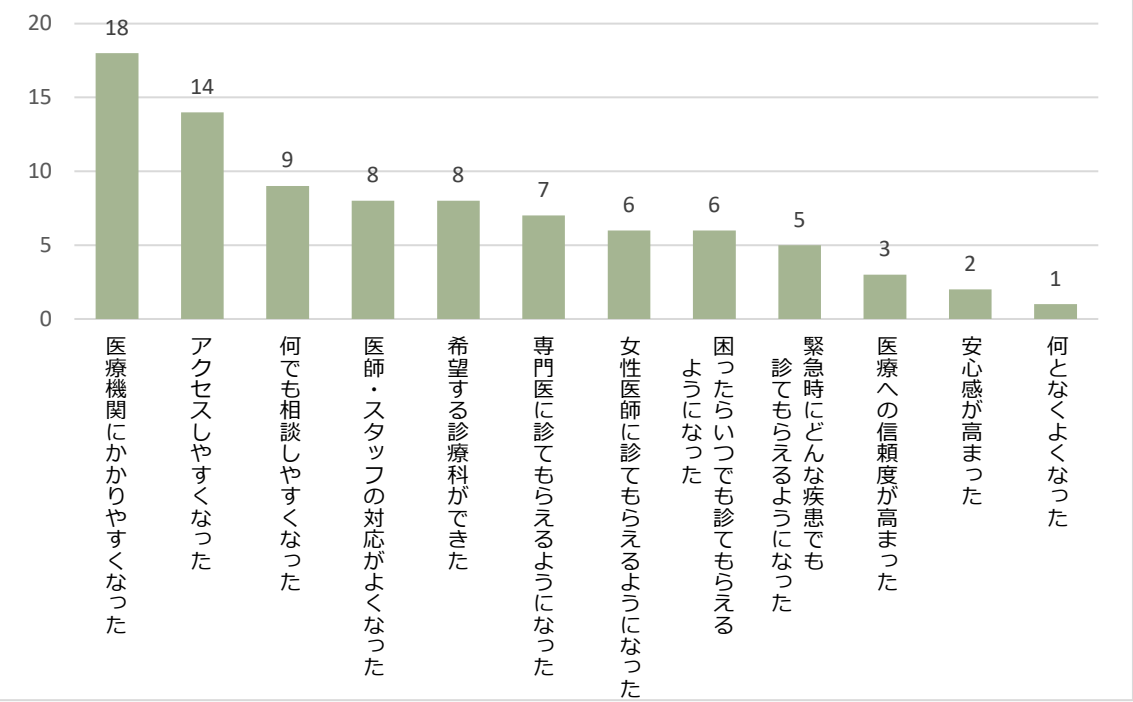

図 4：十年前までと比べて新見の地域医療で改善した点

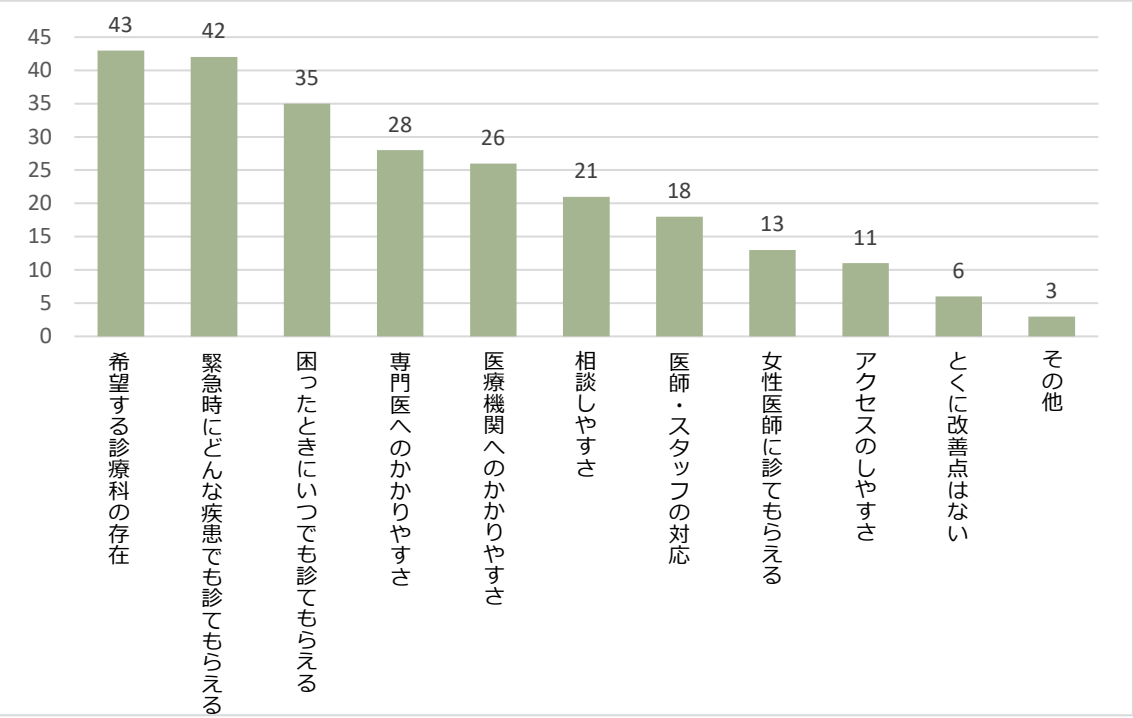

図 5：新見の地域医療で改善されるとよい点

以上のことから、本調査では女性医師支援が住民視点による地域医療の充実に寄与していることが示唆された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計17件（うち査読付論文　14件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　12件）

１．著者名 Kataoka H U, Tokinobu A, Fujii C, Watanabe M, Obika M.	４．巻 23(1)
２．論文標題 Eleven years of data on the Jefferson Scale of Empathy - medical student version: Japanese norm data and tentative cutoff scores.	５．発行年 2022年
３．雑誌名 BMC Medical Education	６．最初と最後の頁 81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12909-022-03977-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Tokumasu K, Nishimura Y, Sakamoto Y, Obika M, Kataoka H, Otsuka F.	４．巻 20(2)
２．論文標題 Differences in Stress Perception of Medical Students Depending on In-Person Communication and Online Communication during the COVID-19 Pandemic: A Japanese Cross-Sectional Survey.	５．発行年 2023年
３．雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	６．最初と最後の頁 1579
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph20021579	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Watari T, Gupta A, Kataoka H.	４．巻 5(12)
２．論文標題 Representation of Gender and Postgraduate Experience Among Professional Medical Society Boards in Japan.	５．発行年 2022年
３．雑誌名 JAMA Network Open	６．最初と最後の頁 e2247548
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1001/jamanetworkopen.2022.47548.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Tamura H, Shikino K, Sogai D, Yokokawa D, Uchida S, Li Y, Yanagita Y, Yamauchi Y, Kojima J, Ishizuka K, Tsukamoto T, Noda K, Uehara T, Imaizumi T, Kataoka H, Ikusaka M.	４．巻 -
２．論文標題 Association Between Physician Empathy and Difficult Patient Encounters: a Cross-Sectional Study.	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Journal of General Internal Medicine	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11606-022-07936-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 渡邉真由，藤井智香子，時信亜希子，溝尾妙子，小川弘子，片岡仁美.	4．巻 45(3)
2．論文標題 岡山大学復職支援制度利用者と勤務する医師の制度および制度利用者への認識に関する縦断調査　2011年度と2018年度の比較	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本プライマリ・ケア連合学会誌	6．最初と最後の頁 82-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14442/generalist.45.82	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 丸山純子，溝尾妙子，吉田美穂，山本智恵子，三上ゆみ	4．巻 43
2．論文標題 中山間地域における医療・介護施設の管理職が捉える急変対応シミュレーション教育の効果と展望	5．発行年 2022年
3．雑誌名 新見公立大学紀要	6．最初と最後の頁 145-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Mizoo T, Mandai Y, Yamamoto C, Murayama J, Yoshida M, Katayama T, Ueyama K, Kataoka H.	4．巻 6(1)
2．論文標題 Practice and the Efficiency of Simulation Training for Nurses in a Rural Mountainous Area.	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Journal of Medical Education and Training	6．最初と最後の頁 70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Fukuyasu Y, Kataoka HU, Honda M, Iwase T, Ogawa H, Sato M, Watanabe M, Fujii C, Wada J, DeSantis J, Hojat M, Gonnella JS.	4．巻 4;21(1)
2．論文標題 The effect of Humanitude care methodology on improving empathy: a six-year longitudinal study of medical students in Japan.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 BMC Med Educ.	6．最初と最後の頁 316
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nishimura Y, Ochi K, Tokumasu K, Obika M, Hagiya H, Kataoka H, Otsuka F.	4．巻 18;23(2)
2．論文標題 Impact of the COVID-19 Pandemic on the psychological distress of medical students in Japan: Cross-sectional survey study.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 J Med Internet Res.	6．最初と最後の頁 e25232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 片岡仁美	4．巻 31(10)
2．論文標題 医師の働き方改革-システムとマインドセットを変えよう！　総論 なぜシステムとマインドセットを変えるのか?	5．発行年 2021年
3．雑誌名 総合診療	6．最初と最後の頁 1215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 片岡仁美	4．巻 31(10)
2．論文標題 360度働き方改革 緊急に取り組むべき項目 どう対応する? 女性医師の働き方 .	5．発行年 2021年
3．雑誌名 総合診療	6．最初と最後の頁 1249-1252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 片岡仁美	4．巻 39(1)
2．論文標題 精神科と女性活躍推進．女性医師のキャリア支援教育、女性が能力を発揮できる職場とは?	5．発行年 2021年
3．雑誌名 精神科	6．最初と最後の頁 98-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 片岡仁美	４．巻 111(5)
２．論文標題 地域医療におけるキャリア形成	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本内科学会雑誌	６．最初と最後の頁 971-976
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　4件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 片岡仁美、時信亜希子、藤井智香子、渡邉真由、小比賀美香子
２．発表標題 コロナ禍におけるプロフェッショナリズム教育が学生のempathyに与える影響およびその性差について
３．学会等名 第16回日本性差医学・医療学会学術集会
４．発表年 2023年

１．発表者名 片岡仁美
２．発表標題 岡山大学におけるD＆I推進の取り組みについて
３．学会等名 全国ダイバーシティネットワークシンポジウム
４．発表年 2022年

１．発表者名 片岡仁美
２．発表標題 女性医療職支援とダイバーシティ&インクルージョン
３．学会等名 日本リハビリテーション医学会秋季学術集会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 片岡仁美
２．発表標題 働き方改革：システムとマインドセットを変えよう
３．学会等名 第18回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 片岡仁美
２．発表標題 働き方改革とwell-being：キャリア支援と性差医療の視点
３．学会等名 第22回日本抗加齢医学会総会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 片岡仁美
２．発表標題 岡山大学総合内科・総合診療科におけるME/CFS診療
３．学会等名 第18回日本疲労学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 片岡仁美
２．発表標題 医療現場におけるダイバーシティ推進を考える
３．学会等名 第22回日本病院総合診療医学会学術総会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 片岡仁美
２．発表標題 性差医療の現状と今後の展望．公開シンポジウム「ジェンダード・イノベーション(Gendered Innovations)～一人ひとりが主役の研究開発が新しい未来を拓く～」．
３．学会等名 日本学術会議第三部　日本学術会議中国・四国地区会議　日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計1件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	藤井　智香子（磯部智香子） (Fujii Chikako) (00534744)	岡山大学・大学病院・講師 (15301)	
研究分担者	渡邉　真由 (Watanabe Mayu) (20794332)	岡山大学・医歯薬学域・助教 (15301)	
研究分担者	三橋　利晴 (Mitsuhashi Toshihiro) (30716890)	岡山大学・大学病院・助教 (15301)	
研究分担者	時信　亜希子 (Tokinobu Akiko) (10758212)	岡山大学・大学病院・助教 (15301)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関